

# 社会福祉施設の消防用設備等

養護老人ホーム、障害児入所施設等（（6）項ロ）	
消火器	全部
屋内消火栓設備	延べ面積700㎡以上
スプリンクラー設備	全部（一部施設は延べ面積275㎡以上）
自動火災報知設備	全部
漏電火災警報器	延べ面積300㎡以上（ラスモルタルのみ）
消防機関へ通報する 火災報知設備	全部 （自動火災報知設備と連動して起動）
非常警報設備	収容人員50人以上
避難器具	20人以上（下階に(1)項から(4)項まで、(9)項、(12)項イ、 (13)項イ、(14)項、(15)項がある場合は10人以上）
誘導灯	全部

老人デイサービスセンター、児童養護施設等（（6）項ハ）	
消火器	延べ面積150㎡以上
屋内消火栓設備	延べ面積700㎡以上
スプリンクラー設備	延べ面積6,000㎡以上（平屋建て以外）
自動火災報知設備	全部（入居・宿泊させるもの） 延べ面積300㎡以上（入居・宿泊させるもの以外）
漏電火災警報器	延べ面積300㎡以上（ラスモルタルのみ）
消防機関へ通報する 火災報知設備	延べ面積500㎡以上
非常警報設備	収容人員50人以上
避難器具	20人以上（下階に(1)項から(4)項まで、(9)項、(12)項イ、 (13)項イ、(14)項、(15)項がある場合は10人以上）
誘導灯	全部

# 防火安全対策

まさかの火災に、日頃の心構えと備えが重要です。



## 1 日常の火気管理

### ▼火の始末



寝たばこは絶対にやめましょう。  
また、決められた場所で喫煙をしましょう。

### ▼キッチン周り等の火気管理・整頓



火を使用する前には、周囲の整理をして正しく使いましょう。

## 2 火災発生時の対応

### ▼迅速な対応



万が一、火災が発生した場合には、迅速かつ的確な対応ができますか？

被害を最小限に食い止めるためには、日頃の心構えと備えが重要です。

# もしもの火災！ 対応行動を頭に入れておきましょう

### 1 火災覚知



火災を覚知したら、素早く行動を起こします。

### 2 火災場所の確認



火災の疑いのある部屋に駆け付けます。  
このときには、消火器を携行します。

### 3 火災室からの避難



火災室に自力で避難できない方がいる場合には、適切な介助により、一時的に火災室の外の安全な場所に避難させましょう。

### 5 戸の閉鎖



火災室を離れるときには、火災を拡大させないよう、ドアや引き戸を閉じることが大切です。

### 4 初期消火



火災室に逃げ遅れ者がいないことを確認し、消火器などを使って消火をします。  
なお、炎が既に天井まで届いているなど消火が困難な場合には、避難を優先します。

### 6 消防機関への通報



消防機関へ119番をして、必要な事項を速やかに伝えます。

### 7 火災室にいた自力避難困難者の建物外までの避難介助



一時的に火災室の外に避難した方を、建物外の安全な場所まで避難させます。

### 9 消防隊への情報共有



消防隊が到着したら、逃げ遅れ者やケガ人の有無など必要な情報を伝えます。

### 8 火災室以外にいる者の建物外への避難

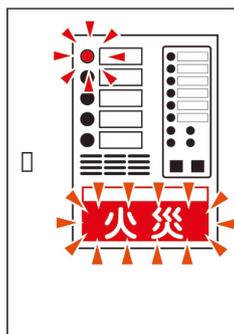


火災の発生を叫びながら、逃げ遅れ者の有無を確認していきます。  
自力避難できない方などには、適切な介助を行います。

# 万が一に備え、消防訓練を実施しましょう!!

実際に避難介助や初期消火・通報行動を短時間に行う訓練をしてみましょう。

## 通報訓練



・実際に火災が発生したときには気が動転し、落ち着いて通報ができなくなる場合があります。落ち着いて聞かれたことに正確に答えていくと良いでしょう。

ただし、通報している場所にまで煙や火が拡大するなどの危険が迫っている場合は、すぐに避難しましょう。

※注意 訓練で119番通報する場合、消防職員の立ち合いが必要です。

## 消火訓練



・消火器を使用する場合は、火点から3～6m離れた位置からねらいます。

・ピンを抜くなどの動作を行った上で放出姿勢をとり、約15秒間維持します。

・炎が既に天井まで届いているなど消火が困難な場合には、避難を優先しましょう。

## 避難誘導（避難介助）



・火災室に自力で避難できない方がいる場合は、適切な介助により、建物外の安全な場所まで避難させます。

・火災の発生を呼びかけながら、逃げ遅れ者の有無を確認していきます。